

## ART 前のチョコレート嚢胞合併患者に対する反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法の有効性に関する検討

辻 勲<sup>1</sup>, 重田 護<sup>1</sup>, 井谷 裕紀<sup>1</sup>, 樽井 千香子<sup>1</sup>, 中岡 義晴<sup>2</sup>, 福田 愛作<sup>1</sup>, 森本 義晴<sup>3</sup>

1. IVF 大阪クリニック
2. IVF なんばクリニック
3. HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【目的】

チョコレート嚢胞(以下, 嚢胞)に対する嚢胞摘出術は, ART 臨床成績の向上に寄与せず, 卵巣予備能に与える影響が大きい. 一方, 嚢胞摘出術を行わない場合, 嚢胞による卵子の数的・質的な低下, 採卵時の嚢胞感染などの問題があり, ART 前の嚢胞の取り扱いについてはコンセンサスがなない. 本研究の目的は, ART を予定している嚢胞合併不妊患者に対する反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法の有効性について検討することである.

### 【対象・方法】

ART を予定している嚢胞合併不妊患者を対象とした. 対象を反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法後に ART を施行する患者(治療群, n=34)と, 無処置で ART を施行する患者(コントロール群, n=54)に振り分け, ART 臨床成績について前方視的に検討した. 嚢胞穿刺吸引術は月経終了後に経膈超音波ガイド下を実施した. 術後 1 ヶ月毎にフォローアップし 10mm 以上の嚢胞を認める場合再穿刺を行った. ジェノゲストは 2mg/日を 3 ヶ月間投与した. 本研究は当院倫理委員会の承認を得て実施した.

### 【結果】

採卵数は治療群がコントロール群より多かった( $12.4 \pm 9.1$  個 vs  $8.8 \pm 7.1$  個,  $p=0.04$ ). 成熟卵数, 受精率, 胚盤胞数, 胚盤胞到達率, 臨床的妊娠率は差がなかった. 嚢胞の大きさは, 治療前は研究群がコントロール群より大きかったが( $35.5 \pm 17.5$ mm vs  $24.2 \pm 10.3$ mm,  $p<0.01$ ), 治療後は差がなかった( $22.0 \pm 10.6$ mm vs  $25.1 \pm 13.1$ mm, 平均観察期間 7~10 ヶ月). 嚢胞直径の治療前後の変化率は, 研究群が  $-29.6 \pm 29.7\%$ , コントロール群が  $7.8 \pm 50.7\%$ であり, 研究群が有意に縮小していた( $p<0.001$ ).

### 【結論】

チョコレート嚢胞合併不妊患者に対する反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法は, 採卵数を増加させるが, 胚培養成績や妊娠率の向上に寄与しない. 反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法は, 嚢胞の持続的な縮小効果があり, 手術回避が必要な患者においては ART 前の治療選択の一つと成り得る.